

四季防災館のリニューアル基本計画骨子

■四季防災館の現状と課題

四季防災館の現状

- 来館者数減少
(開館当初から4割減)
- 老朽化、陳腐化

能登半島地震での経験

- 初めての震度5強へのとまどい
- 大地震への備えが必要という危機感
- 車での避難による道路渋滞の発生
- 液状化被害が発生

県民アンケート結果 (N=1287人)

施設の認知度

①知っている 79.1%

施設の充実度

①充実している 35.4%
②どちらかといえば充実 55.5%

施設に求める機能

- ①リアリティのある災害を体験できる機能 85.0%
 - ②地域の災害リスク等を学べる学習機能 63.2%
 - ③災害への日頃の備え等に関する展示機能 61.7%
- (※来館経験のある人で集計。複数回答可。選択した人の割合)

来館者アンケート結果 (N=384人)

各コーナーの満足度(上位5コーナー)

①地震体験 84.9%
②初期消火体験 59.9%
③煙体験 59.6%
④暴風雨体験 54.4%
⑤防災シアター 49.2%

(※「よかった」と回答した人の割合)

新設または充実したらよいもの(上位4項目)

- ①現場にいるような災害の体験 42.4%
 - ②実際に近い、生活場面に即した地震体験 33.9%
 - ③住んでいる地域のリスクを学ぶ 33.6%
 - ④水害の危険の体験 30.0%
- (※複数回答可。選択した人の割合)

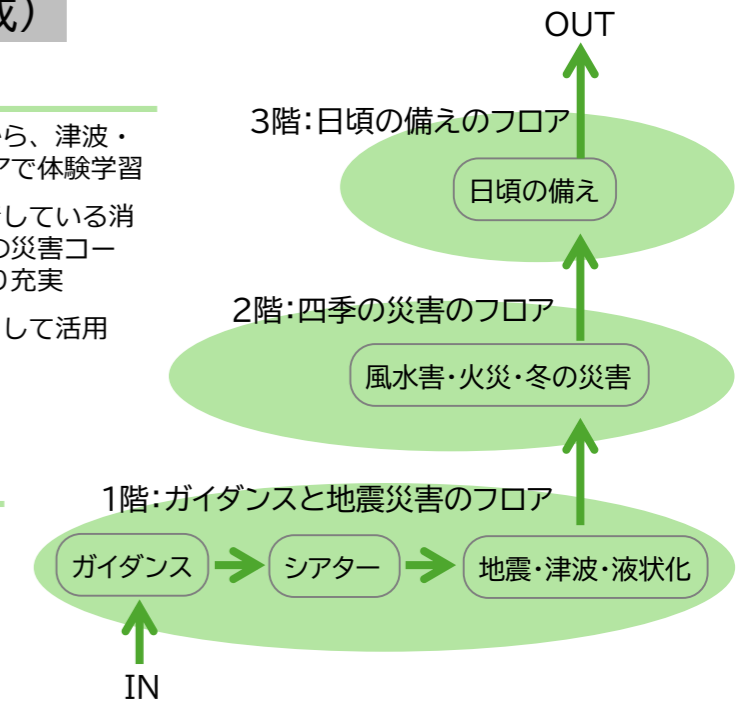
■展示計画(展示方針・テーマ構成)

フロア構成の考え方

- 1階は、現在の地震体験を拡張し、地震発生から、津波・液状化、避難行動まで一連の流れをワンフロアで体験学習
- 2階は、四季の災害とからめ、定番として定着している消火・煙避難・風雨・流水の4体験を残し、冬の災害コーナーの見直しとクイズコーナー等の新設により充実
- 3階は、日頃からの備えを中心とするフロアとして活用

体験の基本的な流れ

- ガイダンスとシアターで心構えと目的意識をもってもらい、その後の体験の効果を高める流れを構築する。
- 体験学習の最後には日頃の備えを学び、帰宅後の対策の実践につなげる。



四季防災館の
リニューアルにあたり

- 本県の体験型学習施設として、今回の地震の教訓や記録を活かしたリニューアルを行う。
- より正しく災害を理解し、災害への備えができるよう、リニューアルを行う。

ありたい姿・
実現したい未来

県民が災害を知り、正しく恐れることで、
災害への備えができ、安全・安心実感が充実している

■管理運営計画

広報活動の積極的な展開

- 四季防災館の認知度向上・来館者増加を図る。

多様な来館者に対応する体験プログラム

- 従来より体験学習メニューが増加、団体向け体験プログラムのバリエーションが増えることが期待される。
- 地震対策を中心とするプログラム、地域の災害リスクと日頃の備えに重点を置くプログラムなど、団体の属性やニーズに応じたプログラムを提供
- 従来より個人グループがフリーで体験学習できるコーナーも増えることから、個人向けの標準コースなどの検討

■リニューアル方針

リニューアル方針①【体験学習のテーマ】

- 地震コーナーの充実強化
- 能登半島地震の教訓や記憶の伝承
- 地域の災害リスクに関する情報の周知強化
- 日頃からの備えにつながる具体的な情報提供
- 冬の災害など富山らしいテーマを充実

リニューアル方針②【体験学習の流れ】

- ガイダンス機能の充実
- 日頃の備えの実践に結び付く学習を行う流れをつくる。

リニューアル方針③【体験学習の手法】

- 没入感が感じられる手法、参加性の高い手法を取り入れる。
- 最新の映像技術、IT技術の進展を踏まえた展示
- 子どもが理解しやすく、楽しく学べる展示

リニューアル方針④【来館者対応】

- ホスピタリティの充実、来館者属性に応じたきめ細かな案内
- 個人客でも充実した体験学習ができるコース

リニューアル方針⑤【WEB連携】

- インターネットを利用したWEB連携を強化し、予習復習への活用、家庭での備えにつながる情報提供

■整備スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度
	基本設計 (R7.1~R7.4)	実施設計・施工 (R7.5~R8.3)
		リニューアル